

なかがわ

広報

2018. 4



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.151

「たかがけへ飛んでゆけ」

| | |
|---------------------|----|
| ●平成30年度那珂川町予算 | 2 |
| ●那珂川町議会議員選挙のお知らせ | 5 |
| ●平成30年度職員配置一覧 | 6 |
| ●ホースハッズ村青少年海外体験学習報告 | 9 |
| ●卒業おめでとう | 16 |
| ●馬頭西小学校が閉校 | 17 |

広報 Koto Gallery
展示室

第151回

中央の松が生い茂る
しゅうかんしま
洲乾島を抜けていくか
のように帆船が行き
交っています。細く伸
びる島の付け根には小
さな漁村が見え、紫雲
たなびく先には大山、

ちんぼ
そして富士山が鎮座しています。さて、本図に描かれて
いるのはどこの風景でしょうか。

画題から察する方も多いと思いますが、答えは現在の
神奈川県横浜市中区(当時は武蔵国横浜村)。私たちが想
像する現在の近代的な港の風景とは大きく異なり、本図
からはのどかな横浜村(しゅうかんみなと
しゅうかんみなと)の風景が見て取れます。
本来、横浜村は半農半漁業の村であり、農業の合間に獲
れた魚を神奈川宿(現神奈川区)や江戸日本橋まで売りに
行く漁師もいたようです。

本図が制作されたのは安政5年(1858)4月とされて
います。この「安政」と名の付く元号の時代はまさに幕末
の激動期であり、同年6月には日米修好通商条約が結ば
れ貿易のために各地に開港する事が決定されました。そ
の内の一つが、横浜港です。翌年の安政6年3月には埋
め立てなど工事が始まり、6月に横浜港が完成しました。
横浜港完成までの動きを見ると、本図が世に送り出され
てから約1年で、描かれた風景から大きく変化したとわ
かります。さかのぼって安政5年9月、本図を描いた広
重は生まれ育った江戸の地で生涯を閉じます。つまり、
本図を描いた広重は変わる前の風景を知っていますが、
横浜港としての風景は知らずにこの世を去ったのです。

激動の幕末期を終え、日本は新たに明治時代へ進みま
す。諸外国の影響を受け、世の中は大きく変化しました。
しかし「歌川広重」という名は広重の死後、二代、三代へ
と引き継がれてゆきます。彼らも激動の時代を生き、見
て、感じ、その変わりゆく風景を浮世絵に描き残しまし

企画展

「江戸から明治へ」



歌川広重 「富士三十六景 武蔵野毛横はま」

た。明治維新から150年経った今、明治時代も遠い時代
になりつつあります。しかし、当時の姿を見て感じる事
が出来るのが浮世絵とも言えるのではないのでしょうか。
本展は初代広重から三代広重までの風景画から、激動の
時代で3人の広重は何を見て、何を描き残したかをたど
ります。

馬頭広重美術館 学芸員 山内れい

【会期】 4月20日(金)～5月27日(日)

【ミュージアムトーク】 4月21日(土)

午後1時30分～ 当館学芸員

【開館時間】 午前9時30分～午後5時

(ただし入館は午後4時30分まで)

【休館日】 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日

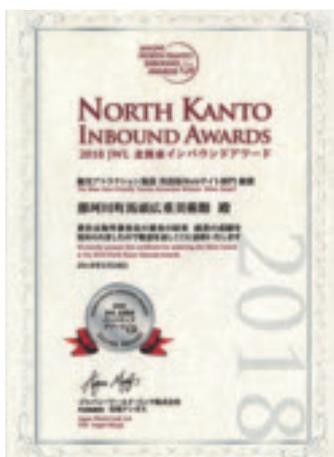
【入館料】 大人 500円(450円)

高・大学生 300円(270円)

※()は20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※障がい者手帳等をお持ちの方とその付き添い1名は半額



「2018 JWL 北関東インバウンドアワード」
銀賞受賞

馬頭広重美術館ではインバウンド事業(外
国人観光客に向けての活動)が評価され、2
月28日に行われた「2018 JWL 北関東インバ
ウンドアワード」の表彰式で「観光アトラク
ション施設英語WEBサイト部門」銀賞を受賞
しました。

